

⑮ えんこうぼし 猿猴橋復元事業

受賞機関 広島市 道路交通局 道路部 道路課・街路課

全建賞審査委員会の評価ポイント

大正15年の完成時は豪華な装飾があったが、戦時下の金属類回収令ですべて装飾が供出されている。また現存被爆6橋の一つで土木学会の近代土木遺産に認定「猿猴橋」の長寿命化及び戦前の姿に戻す事業。「被爆70周年記念事業」として、復元事業と同時に補修工事を行うことでコスト縮減を図るとともに、良好な景観形成を実現。行政と市民が一体で取り組んだ結果、復元後は地元主導による祭りが開催されるなど、地域の活性化につながったことを評価。

1. はじめに

猿猴橋は、現存する被爆橋6橋の一つであり、土木学会選奨の土木遺産である。

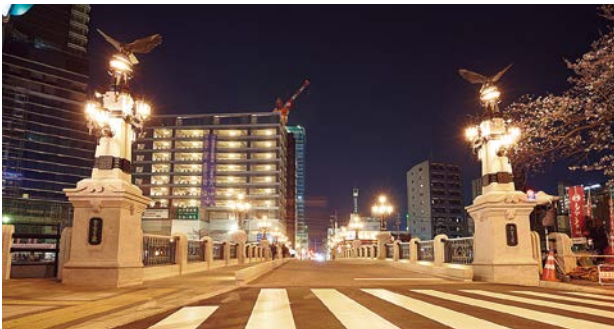
猿猴橋が大正15年に現在のコンクリート橋に架け替えられた際、電飾や鋳物の透かし彫りなど豪華な装飾が施されていたが、昭和18年、戦時下の金属資源不足のため発せられた金属類回収令により、これらの装飾品が全て供出された。

また、昭和20年の原子爆弾投下では、欄干の一部が破損する被害を受けたものの、構造的な被害はわずかにとどまり、被災者の避難や救援活動に使われ、多くの命をつなぐ役割を担った。

広島市の街の復興を見届けてきた猿猴橋が戦前の姿を取り戻すことは、平和への思いを後世へ伝えるための象徴となるものである。

2. 事業の概要

猿猴橋を復元しようとする活動が地元で行われていたことから、本市は「被爆70周年記念事業」として、その取組みと連携し、市民と公共の協働によるまちづくりにより、来訪者に新たな都市の魅力を発信することを目的として、猿猴橋を復元した。また、この復元事業に併せて、老朽化した橋の長寿命化事業も実施した。



復元後の猿猴橋

3. 事業の成果

「水の都ひろしま」に相応しい良好な景観形成を実現するため、様々な美装化を行い、往年の姿を取り戻した。復元する青銅鋳物の装飾を既存の花崗岩に設置する予定であったが、花崗岩には90年間で染みついた汚れがあった。当時のビシャン仕上げを削ることなく洗浄するため、原発事故で民家に付着したセシウム等を除去するために考案された「ソフトブラスト特殊洗浄工法」を採用した。

また、猿猴橋の当時の装飾の設計図はなく、過去の写真では、装飾の細部について不明な点が多く見られた。そのため、広島市立大学芸術学部の協力を得ながら、写真解析や同時代に架設された橋梁の情報などから装飾を復元した。

復元事業に併せて長寿命化事業を実施することで、コスト縮減を図るとともに、この橋を末永く後世に伝えることも可能となった。

猿猴橋復元工事の完成式典は、地元主導による祭り「えんこうさん」と連携して開催した。大正15年当時の渡り初めを再現するため、市長、県知事を始め、地元町内会長や工事業者など多くの関係者が袴姿や着物姿で出席した。また、広島東洋カープの選手たちや地元の子どもたちによる橋上イベントは大盛況で、主催者発表で1万人が参加する祭りとなり、地域の活性化につながった。



大正15年当時の渡り初めの再現

4. おわりに

地元住民の方々をはじめ、本事業にご協力いただきました関係者の皆様に、改めて感謝を申し上げます。

賛助会員 復建調査設計(株)、宮川興業(株)